

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成25年8月15日(2013.8.15)

【公表番号】特表2012-531994(P2012-531994A)

【公表日】平成24年12月13日(2012.12.13)

【年通号数】公開・登録公報2012-053

【出願番号】特願2012-519047(P2012-519047)

【国際特許分類】

A 6 1 F 2/46 (2006.01)

【F I】

A 6 1 F 2/46

【手続補正書】

【提出日】平成25年6月28日(2013.6.28)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

人工装具インプラントを骨の中に挿入するための外科用押込み装置であって、
インプラントを外科用押込み装置に取外し可能に連結する可動保持手段を有し、前記可動保持手段は、インプラントが外科用押込み装置に連結される第 1 の位置と、インプラントが外科用押込み装置に連結されない第 2 の位置を有し、

さらに、前記可動保持手段を第 1 の位置と第 2 の位置との間で移動させるための機構を有し、前記可動保持手段と前記機構は、外科用押込み装置から取外し可能である、外科用押込み装置。

【請求項 2】

さらに、前記可動保持手段と協働してインプラントを外科用押込み装置に連結する固定保持手段を有し、インプラントは、固定保持手段と可動保持手段との間に受入れられる、請求項 1 に記載の外科用押込み装置。

【請求項 3】

前記可動保持手段は、足部とねじ部分を有し、前記足部は、前記ねじ部分に取付けられる、請求項 1 又は 2 に記載の外科用押込み装置。

【請求項 4】

前記機構は、可動保持手段のねじ部分を受入れるねじ孔付きホイールを有し、前記ねじ孔付きホイールは、外科用押込み装置に対して固定された位置を中心に回転可能であり、前記ねじ孔付きホイールを回転させることにより、前記足部を並進させる、請求項 3 に記載の外科用押込み装置。

【請求項 5】

前記足部と前記ねじ孔付きホイールは、外科用押込み装置の分離部分によって分離され、前記ねじ部分は、前記分離部分の開口を通る、請求項 4 に記載の外科用押込み装置。

【請求項 6】

さらに、前記可動保持手段と前記機構の取外しを可能にする取外し可能部分を有する、請求項 1 ～ 5 のいずれか 1 項に記載の外科用押込み装置。

【請求項 7】

使用時、前記ねじ孔付きホイールは、前記足部と前記取外し可能部分の間に配置される、請求項 6 に記載の外科用押込み装置。

【請求項 8】

前記取外し可能部分は、前記ねじ部分を受入れる孔を有する、請求項 6 又は 7 に記載の外科用押込み装置。

【請求項 9】

外科用押込み装置は、脛骨用インプラントを脛骨に挿入するための脛骨用押込み装置である、請求項 1～8 のいずれか 1 項に記載の外科用押込み装置。

【請求項 10】

外科用押込み装置を滅菌のために分解する方法であって、

前記外科用押込み装置は、ねじ部分と前記ねじ部分に取付けられた足部を有する可動保持手段と、前記可動保持手段のねじ部分を受入れるねじ孔付きホイールを有する、前記可動保持手段を移動させるための機構と、取外し可能部分と、を有し、

前記方法は、前記取外し可能部分を外科用押込み装置から取外す工程と、

前記ねじ孔付きホイールを回してそれを前記可動保持手段のねじ部分から外す工程と、

前記可動保持手段を外科用押込み装置から取外す工程と、を有する方法。

【請求項 11】

さらに、分解された外科用押込み装置を滅菌する工程を有する、請求項 10 に記載の方法。